

明石市立大蔵中学校だより「2019年7月16日（第13号）」

書あり 師あり 友ありて



大蔵中生への熱い熱いご声援ありがとうございました

学校長 平田 高之

この土日に行われました「第41回東播地区中学校総合体育大会」では、明石市総体に続き、大蔵中生がよくがんばってくれました。2日間で約200キロ走りましたが、距離的・時間的なことから、すべての競技を応援に行けませんでしたが、一部ですが、生徒たちのがんばっていた様子を観戦記として紹介させていただきます。

まず初日は高砂総合体育会館の柔道からスタートしました。

男子の団体戦でしたが、5人同士で試合をしますが、ご存じの通り大蔵の男子は4月まで中3の5名だけでしたから、団体戦には3年生全員が出場します。対戦相手には重量級の生徒がメンバーに入っている中、大蔵は5名のうち4名が軽量級のメンバーですから、大変不利な条件での戦いです。しかし、全員黒帯を取得していますし、日頃から少ない人数でも苦しい基礎トレーニングや練習を積み重ねていますから、その成果を十分発揮してくれました。予選リーグを1勝1敗で突破し、決勝トーナメントでも1回戦の鹿島中学校、2回戦の白陵中学校に勝利し、準々決勝では準優勝した小野中学校に敗れましたが、ベスト8に入り、県総体出場を見事獲得しました。



次に加西のアラジンスタジアムの野球場に向かいました。1回戦の相手は加古川市総体優勝の中部中学校でした。初回、先発の□□□□が調子よく2アウトを取りましたが、そこからエラーがらみで相手の攻撃に勢いがつき5点を先取される苦しいスタートとなりました。2回にも、同じく2アウトから2点を失い、序盤に0対7の大差がつきました。しかし、3回から□□□□が好リリーフをしてリズムを作り、3回裏に2点、さらに6回裏にも2点を返し、なお、1アウト2・3塁のチャンスだったのですが、その後、得点を奪えず4対7で敗れてしまいました。スポーツには「たら、れば」はないのですが、1回表をスムーズに乗り切れていればという思いを残しながら、バスケツトボール会場の加古川市立総合体育会に向かいました。

野球の試合中に、男子が1回戦で稲美中学校に1点差で敗れるという報告が入りショックを受ける中、女子の2回戦の途中に会場に着きました。大蔵は、市内大会では、秋・春・総体と優勝していましたから、大久保中学校は大蔵の研究をよくしてきており、前半どころか第3Qまでリードを許す苦しい試合展開でした。しかし、山本監督や生徒たちは、リードされていても落ち着いていて、その後、地力を発揮し第4Qで逆転して、最後は1点差まで追いつけられも逃げ切りました。

翌日の第1試合は準決勝水丘中学校戦で、東播地区48校から県総体出場の切符は2枚しかない中で、「絶対に負けられない試合」でした。しかし、試合前の監督・選手は、前日の疲れも見せずに笑顔で試合前のアップをしていて、これはいけるなという感じでした。試合当初は、両チームともなかなかシュートが決まらず膠着状態でしたが、大蔵の動きの方がよく、監督の意図を選手が十分理解し、持ち味のランニングバスケットでコートを駆け回り、攻守とも攻勢を続け、徐々に点差が広がっていきました。それでも、最後の1秒まで気を抜かず走り切り、最終的には58対31のダブルスコアに近い大差をつけ快勝しました。監督いわく「今年のベストゲーム」とう内容で、それをプレッシャーのかかる試合でやってのけた生徒のすごさには感動させられました。目標を達成して涙を流している生徒もいましたし、本当に県総体出場おめでとう！

その後、剣道会場の小野市総合体育館に向かいました。男子は団体優勝を目指していましたが、応援にも力が入りました。会場に着くと団体戦ということで、熱気に満ち溢れていましたが、大蔵は2回戦の別府中学校戦の途中でした。見事に勝利をおさめましたが、そこからドラマが始まりました！準々決勝の高砂中学校は、H27東播総体優勝で今回も強豪と聞いていましたが、決定戦にまでもつれ込む激しい接戦となりましたが勝ちました。続く、準決勝大久保中学校戦も、相手が大蔵ということで必死に食いついてこられ、大将戦までもつれながら何とか勝利しました。決勝戦の対戦相手は、現在東播新人総体及び総体を7連覇中のライバル加古川中学校でしたが、今回は、大蔵が先鋒より一歩も引くことなく積極的な攻めの剣道を最後まで貫き、見事に勝利を飾り、平成25年以来の団体優勝を果たしました！苦しい試合を勝ちぬいた主将はじめ涙の優勝で、表彰式でも大変立派な態度でした。しかし、敗れた加古川中学校の生徒たちの表彰式での悔しい表情も大変印象に残っています。県総体では打倒大蔵に向けさらに強化してくるに違いありません。次こそ全国大会をかけた本番ですから、さらに気合を入れがんばってほしいと思っています。



市総体から東播総体までには、さまざまなドラマがありました。特に、3年生にとっては最後の大会ですから、今までの中学校生活の思いを込めたその姿には多くの感動を受けました。よく「一生懸命頑張ったから悔いがない」と言いますが、私は「一生懸命頑張ったからがんばったほど、結果が出なかった時は悔しい」と感じるはずだと考えています。「あれだけ苦しい練習をやってきたのに、いろんなことを我慢してかけてきたのに」という本気の思いがあれば、負けた時は簡単には受け入れることができないのではないのでしょうか。いずれにしても、市総体で敗れたチーム・個人から、この後、県総体に向かうチーム、個人それぞれですが、部活動で得た経験や仲間を、今後の中学校生活、少し大きくなるかもしれませんが、人生に活かしてほしいと願っています。

主な東播総体結果はホームページに掲載しています。また、「第63回兵庫県中学校総合体育大会」は下記の日程で行われますが、詳細が決まりましたらホームページでお知らせします。

○水泳競技：7月25・26日（神戸市立ポートアイランドスポーツセンター）

○バスケットボール：7月26・27日（加古川市立総合体育会館）

○柔道：7月29・30日（ウインク武道館） ○剣道：7月26・27日（高砂市総合体育会館）